

植物

A : 31 種

B : 59 種

要調査 : 11 種

今見られない : 15 種



A コヒロハハナヤスリ



お墓やお寺の境内、湿った道ばたなどに生える高さ 20cm ほどのシダ植物です。葉を 1~3 枚つけ、それとは別に胞子が入った棒のような形の葉をのぼします。

A デンジソウ



水田や池などに生えるシダ植物です。四つ葉のクローバーに似た形で、「田」という字に似ていることから「田字草」と名づけられました。除草剤の影響で激減しています。

A サンショウモ



水面に葉を浮かべ、土に根を張らない浮草タイプのシダ植物です。冬には枯れてしまいます。葉の形が木のサンショウに似ていることから名づけられました。

A サクラバハノキ



湿地に生える高さ 10m くらいになる木で、サクラに似た葉をつけることが名前の由来です。2~3 月ごろ花びらのない花をつけます。冬には葉を落とします。

A サデクサ



川沿いや湿地などに生えます。茎には下向きのとげがあり、大きくなると周囲の草に寄りかかります。葉は矢じり形です。夏から秋に白い小さな花をつけます。

A オニバス



ため池に生える水草で、トゲのある大きな葉を水面に広がります。夏に紫色の花を水の上で咲かせますが、水の中にも開かない花をたくさんつけています。

A アゼオトギリ



水田の畦や用水路わきに生えます。茎が数本地面をはうように伸びて、立ち上がると高さ 10~40cm ほどになります。夏に黄色い花をつけます。

A イワレンゲ



海岸の岩の上、石垣などの乾いた場所に生えます。9~11 月、高さ 10~20cm の茎に、白いたくさんの花が集まって咲きます。1 度花を咲かせると枯れます。

A ナガボノワレモコウ



湿った草地や畦などに生えます。高さ 80~130cm で、秋に、小さな花が集まった赤紫色や白色の花穂*をつけます。花には花びらはありません。

A イヌハギ



河原や海に近い日当りのよい砂地に生えます。茎の下のほうは木のようにかたくなります。葉は 3 枚セットで、7~9 月にうす黄色の花をたくさんつけます。

A イヌセンブリ



野や山の栄養分の少ない湿地やその周辺に生えます。高さ 30cm ほどで、枝分かれます。9~11 月に白い花びらにうす紫色の線の入った花をつけます。

要 マダラウミスズメ



主に北日本で冬をすごす渡り鳥ですが、数が少なく、目にする機会は少ないです。明石の海にもあらわれることがあります。肩の羽が白いことが特徴です。

要 ウミスズメ



冬を日本で過ごす渡り鳥で、北海道では夏をこすものもいます。海に潜って、魚やエビなどの動物を食べます。やや太めのうすいピンクのくちばしが特徴です。

要 カンムリウミスズメ



世界でも日本の周りの海にしかいない鳥です。夏に小さな島々で子育てをし、冬には岸から離れた海の上で過ごします。うすい水色のくちばしをしています。

要 ツミ



山地の森林から街の公園の林などでも見られる、ハトより小さなタカの仲間です。小鳥や虫を捕まえて食べます。「キークキキキ」などと鳴きます。

要 オオコノハズク



山地の森林にくらすフクロウの仲間です。体は木のような模様をしていて、頭に耳のような羽(羽角)があります。夜、ネズミなどの小さな動物を狩ります。

要 コミミズク



冬を日本で過ごす渡り鳥で、河川敷や農耕地などの草地で見られるフクロウの仲間です。杭などにとまってねらいを定め、ネズミなどを捕まえます。

要 サンコウチョウ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、スギやヒノキのある林を好みます。オスの長い尾と、くちばしと目の回りのブルーが特徴。「ツキヒホシ、ホイホイホイ」と鳴きます。

要 オオルリ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、山地の森林にくらしますが、渡りの時期には公園の林などでも見られます。オスは頭と背中が青く、メスはうす茶色をしています。

要 セグロセキレイ



川の上流から中流で見られる、白と黒のスマートな小鳥です。長い尾を振りながら地面を歩き、虫を捕まえます。似た仲間に顔の白いハクセキレイがいます。

明石の鳥たち

海に面し、東西に長くのびる明石市。どんな場所にどんな鳥がいるのでしょうか。日本有数の数を誇るため池には、豊富な水草が育ち、たくさんのサギ類や、冬鳥のカモ類などの水辺の鳥が、エサを食べたり休んだりする場所になっています。春と秋の渡りの季節には、遠くからやってくるシギ・チドリ仲間が羽を休める、渡りの中継地にもなります。潮の流れの速い明石海峡には魚が多く、カモメなどの海鳥がエサを求めて集まります。海岸の砂浜では、シロチドリが卵を温め、やがて小さなヒナが生まれます。大きな森の少ない明石市では、森にくらす渡り鳥が明石公園や金ヶ崎公園に集まり、春と秋にはいろいろな種類の鳥を見ることが出来ます。旅の鳥たちにとって、都市の中の公園の緑はオアシスに見えるかもしれません。明石の鳥たちについては、明石市立文化博物館の『明石の野鳥』に詳しく書かれています。明石の自然と鳥たちのかかわりがよくわかります。ぜひ読んでみてください。

明石いきものコラム

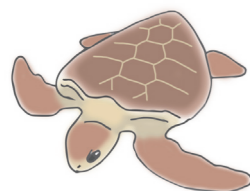
明石の野鳥



*花穂：小さな花が集まって穂のようになったもの

はちゅうるい
爬虫類

A: 2種
B: 2種



A アカウミガメ



世界の暖かい海に広くすんでいます。このうち日本で卵を産む集団は、メキシコまで泳いでいくことがわかっています。明石市の砂浜でも産卵記録があります。

A ニホンイシガメ



川の上流や中流、山のふもとや池にすんでいます。冬は水の中や落ち葉の下で冬眠します。こうらの色は黄色っぽい茶色で、後ろの縁がギザギザしています。

B ニホントカゲ



日当たりのよい草地や石の多い場所を好みます。冬は土の中や石垣の間で冬眠します。虫やミミズなどを食べ、敵に近づくと尾を切って逃げることがあります。

B ヒバカリ



農耕地の周辺にいて、特に水辺を好みます。泳ぐのが上手で、カエルやミミズなどを食べます。首の後ろにななめにうす黄色の模様が入るのが特徴です。

両生類

A: 4種
B: 1種



A セトウチサンショウウオ



雑木林にすむ小さなサンショウウオです。全身が茶色っぽい色をしています。冬から春、浅い水の中に、透明な卵のうに包まれた卵を産みます。

A ニホンアカガエル



水田の周りの草地や池のそばの森林にすんでいて、クモや虫を食べます。冬に卵を産むと、もう一度冬眠して、暖かくなると動きはじめる習性があります。

A ナゴヤダルマガエル



水田にすむ、トノサマガエルによく似たカエルです。虫やクモなどを食べます。水田が減ったり、コンクリートで整備されたりしたため、数が減っています。

A ツチガエル



水田や池にすむ茶色っぽいカエルです。背中にイボがたくさんあり、「イボガエル」ともよばれます。オタマジャクシのまま冬をこす珍しいカエルです。

B トノサマガエル



水田や池にすむ、虫やクモなどを食べています。足が長く、動きの素早いカエルです。春になるとオスは田んぼでなわばりをつくり、夜に大きな声で鳴きます。

要 カラトイスカバチ



林や草地にすみ、成虫は春のおわりと秋に見られます。体が真っ黒い小さなハチで、木にあいた小さな穴に巣を作ってアブラムシを運びこみ、卵を産みつけます。

要 ヤマトトリジガバチ



林や草地にすみ、竹筒の中に泥で固めた巣をつくり、成虫は深い藍色の体をしていて、クモの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

要 ナミルリモンハナバチ



明るい林や草地にすんでいます。黒い体にりり色の毛が所々に生えた美しいハチで、夏遅くから秋にかけて見られます。いろいろな花を巡って、蜜を吸います。

要 ヒロバトガリハナバチ



林や周辺の草地にすみ、成虫は春から秋まで見られます。黒い体に白い毛が生え、しま模様に見え、メスのおなかの先はとがっています。いろいろな花を訪ねます。

要 ヤマトハキリバチ



お墓や土手など草が少ない場所にすんでいます。成虫は春に見られ、石のすき間の巣で、切り取った葉でつくったカプセルに花粉をつめ、卵を産みつけます。

要 クズハキリバチ



クズのしげる林の周りにすむハキリバチの仲間です。成虫は夏に見られ、古くて大きな木にあいた穴を巣として使い、主にクズの葉を切り取って運びこみます。

要 キバラハキリバチ



海辺や河川敷の砂地にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、地面に穴を掘って巣をつくり、切り取った葉のカプセルに花粉をつめ、卵を産みつけます。

今 ベッコウトンボ



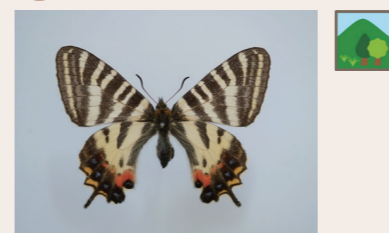
ヨシが生えた明るい池にすんでいます。成虫は春から初夏に見られ、水辺でなわばりを張ります。はねに3か所の茶色い斑紋があります。

今 ヒメヒカゲ



林沿いの湿地周辺にすむ、初夏から夏に見られます。はねの裏側によく目立つ目玉模様があります。幼虫は湿地に生えるスゲの仲間の葉を食べて育ちます。

今 ギフチョウ



明るい林にすんでいます。成虫は「春の女神」とよばれ、サクラが咲く頃に見られ、いろいろな花で蜜を吸います。幼虫はカンアオイの葉を食べて育ちます。

明石いきものコラム **すごいな、明石公園**
明石公園は、いろいろな昆虫がいることで有名です。Bランクとされているコカブトムシやクロマダラタムシ、ウマノオバチなど、森にすむ昆虫が多いことが特徴です。クワガタムシやハナムグリもたくさんいます。明石公園には大木が多く、利用者の安全に影響しない林の奥には、弱った木や枯木、倒木、折れた枝が、自然な状態に置かれています。芽生えた木が長い年月をかけて土に返るまでの、さまざまな段階があることで、多様な昆虫が生活できるのです。
公園の広い敷地と森林が、豊かな生き物を育んできました。明石公園は明石市民の誇りですね。



明石公園の林